

# 中山間地域における 農業振興への取り組みは

町長 農家所得の向上につながるように取り組んでいく



田中 孝議員

**農業の現状認識に対する方策は**

**田中** 中山間地が多く高齢化が進み、担い手不足で農村の地域をどう守るかを問う。

**町長** 産地交付金対象作物への誘導や日本型直接支払の導入、農地中間管理機構による農地の集積などメリット措置を十分に生かした取り組みが必要と考えている。

**自然環境の保全は**

**田中** 農業が営まれてこそ自然環境が守れると思うが町の考えは。

**町長** 特に水田については、出水調整や土砂の流出を抑える役目を持つほか、多方面にわたり国土保全に大きく寄与していると考えられる。農業・農村を守ることは町全体を守ることにつながるものであり、地域の方々と一緒になって農地の維持保全に取り組んでいかなければならないと認識をしている。

**中山間直接支払への取り組みはどうか**

**田中** 現在、交付金は個人配分4割未満、共同取り組み6割以上だが今後の方針は。

**農林主幹** 地域の事情に重点を置いて取り組んでいる集落もある。地域の話し合いの中で進めていけるような基本方針の見直しに取り組ん

でいきたいと考えている。

**担い手が育つ環境作りは**

**田中** 担い手がすすんで農業に取り組むには水田の基盤整備が必要と思うが。

**町長** 田畑の基盤整備等々は莫大な経費がかかる。実際にとり組まれる地域の方々が、人・農地プランの中で検討しながら、農地を守っていくことについて協力が得られれば、町としても支援をしていくことは考えられる。

**新たな事業への取り組みは**

**田中** 新たな事業である農工商観連携での農と食による地域の魅力創造事業の取り組み状況を問う。

**農林主幹** 県単独の補助事業で、農工商観連携の組織「白鷹豆プロジェクト推進協議会」を立ち上げた。町の振興作物の枝豆の加工を主としながら、生産額の向上、産地づくり、ブラ

ンド化を目標に進めている。

**農業委員会の役割は**

**田中** 農地中間管理事業へのかかわりと規制改革の中での農業委員会の役割を問う。

**農業委員会会長** 農地中間管理理事業への具体的なかかわり方は白鷹町農業再生協議会での調整と考えている。農業委員会は法令に基づき許可可業務のほか優良な農地の確保及び有効利用、農業者の意見を踏まえた政策提案など、農業者の代表機関として重要な役割と機能を担っている。



萩野ほ場整備地